

## 出題傾向の 解説&解答の ポイント

## 2020年度 一般入試A日程(1日目)の 「英語」を詳しく解説!

# 英語

### 出題形式

本日程の試験問題は、文法・語法・熟語問題の小問と整序英作文問題の小問の2つを合わせた、語彙・文法分野に関する大問1題、会話文問題1題、英文読解2題の大問4題で構成され、問題数は37問(空欄数は41)である。すべてマークシート方式で、選択肢の数は問題によって異なる。試験時間は60分で、日頃から時間を意識した解答の練習ができていれば、無理なく完答できる問題数であると言える。第1問は、文法・語法・熟語の知識を問う補充問題10題で構成された小問と、和文の意味に沿って、空所で与えられた選択肢5つを並べかえて英文を完成させる整序英作文問題4題で構成された小問からなる。第2問の会話文問題は、短い会話の中に空所が設けられ、そこに入る適切な発話を選ぶ問題3題で構成された小問と、長めの会話の中に設けられた5つの空所に、与えられた6つの選択肢の中から選んで入れる問題で構成された小問からなる。第3問の英文読解問題は、約300語の文章を基に、空所適語補充問題5題と、文意選択問題、空所適文選択問題、内容真偽問題がそれぞれ1題設けられている。第4問の英文読解問題は、約500語程度の英文に関する内容の理解度を図る問題7題で構成されている。文章で用いられている語彙は、主に入試標準レベルまでの語彙で構成されているが、ほとんどは高校中級～入試入門レベルの語彙であるため、読みにくいことはないであろう。

### 解答のポイント

全体的な難易度は、高校標準～入試標準レベルの範囲内だと言える。対策としては、高校での学習を完璧に身につけ、基本事項の漏れが無いようにすべきである。その上で、入試入門レベルの問題演習を行っておくことが重要である。それでは、各大問の特徴を踏まえて対策を考えていこう。

第1問では、高校で習得する文法や語彙に関する知識と運用力を試している。そのため、まずは授業で学習したことは全て身につけておき、入試入門レベルの単語・熟語帳を一冊は仕上げ、その後基礎～標準的なレベルの総合文法問題集を行っておくと良い。

第2問の会話文問題では、教科書や準拠問題集などで用いられている基本表現を覚えておくことと、会話の流れ、特に問かけ方や答え方の練習を積んでおくことが必要となる。会話文問題を演習するだけでなく、インターネットなどをうまく使って、初級会話をなるべく聞きためておくことも、非常に有効な対策となる。

第3問の英文読解問題では、内容よりも、主として部分的な文脈を理解する力を試す意味合いが強いため、和訳の練習や教科書レベルの和文英訳で演習を積んでおく方が良い。内容真偽問題もあるが、次の第4問の対策で十分なので、この大問の対策としては、主に単文の解釈を演習しよう。

第4問の英文読解問題は、英語が苦手な受験生には少々大変だと思われる長さの文章が使われているが、語彙のほとんどが高校標準～入試入門レベルであるため、英文を読む練習を積んでおけば大丈夫であろう。今まで学習した文章を読み直しつつ、その内容をメモする練習をしたり、今までの定期テストの英文読解問題を解きなおし、弱点を克服しておいたりすることが必要だ。また、英文に慣れていない受験生は、音声付きのテキストがあれば、その音声と一緒に英文を読む練習をしながら、前述の対策を行ったうえで、入試入門レベルの問題集を仕上げると良い。

総じて、今までの学習をしっかりと復習し、苦手や不案内な箇所を無くしておくことが最大の対策である。難しめの問題集や、学校の学習そっこのけで学外での学習に励む前に、今までやり残したことをきちんと消化させることが最重要である。